

2019年

ふれあい通信

第3号

2月26日

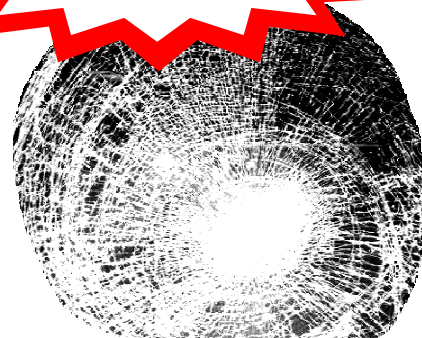


もうこれ以上、犠牲者を出さないで！

夜間 通り慣れた道 横断中

今年に入り、交通死亡事故が多発しています。

2月25日現在、交通死亡事故は13件13人(前年比+6)で、そのうち高齢者が10人を占めています。また夕方・夜間、自宅近くの道路を横断中の高齢者の死亡事故が目立ちます！



事例

高齢歩行者交通死亡事故

側溝

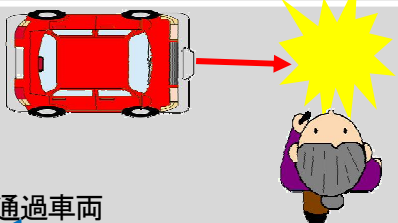
外側線

県道

通過車両

外側線

側溝



●日時 平成31年2月 午後6時台

●東近江市

●普通乗用車×歩行者

(80歳代女性 死亡)

●事故状況

普通乗用車が横断中の歩行者と衝突



私たちが約束します！

横断する前、左右確認！

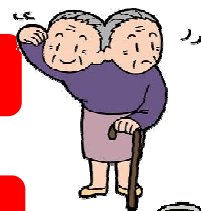
右も左も両方確認！遠くに見えても車は速い！とまる・見る・待つ

明るい服装と反射材！

夕暮れ夜間、黒っぽい服装は車の運転者から見えていません..

ご近所こそ、油断大敵！

通り慣れた道で、高齢歩行者の死亡事故が多発しています



私の妻は平成19年交通事故で亡くなりました。相手の脇見運転が原因です。時間にすれば2秒から3秒の脇見が妻の一生を奪ったのです。

その日の朝は妻と2人でご飯を食べて、私はいつものように釣りに出かけました。妻は畑に行くと言っていたのですが、この時の会話が妻と交わした最後の言葉になりました。

妻が事故に遭ったのは、午前8時半ころです。相手は近くに住んでいる会社勤めの女性でした。出勤前に用事を済ませようと急いでいたのと助手席のバックが気になって脇見したため、自転車で道路を横断していた妻を発見できなかったのです。はね飛ばされた妻はブロック塀に叩きつけられました。

釣り場から呼び戻され慌てて病院に行くと言った妻は手術中でした。手術が終わり集中治療室に運ばれる妻に声を掛けましたが反応は無く、担当の医師からは「出血がひどく、今夜がヤマです。」と言われました。その夜、息子が見舞いに行ったところ、目を開けて何か言いたげだったそうです。意識が戻ったのだと思いますが、大きな怪我だったので大変苦しかったのではないのでしょうか。

次の朝、病院から「容体が急変した。」との連絡があり急いで駆け付けると、私たちを待っていたかのように妻は息を引き取りました。

亡くなった妻と一緒に自宅に戻ると相手の運転手が来ていました。彼女は、泣いて詫言っていました。妻を失った悲しみが強く、何も考えられませんでした。彼女は妻の命日やお盆にお墓参りに来ます。お線香もあげてくれますが、事故から3年が経った今でも、恨む気持ちは無くなりません。あの時の悲しさは忘れられません。彼女は執行猶予付きの判決を受けましたが何故、妻が死んだのに刑務所に入らないのか不思議です。一生罪を背負って苦しみながら生きて欲しいと思います。

彼女は私の家の近所に住んでいます。その親戚も私と同じ自治会に住んでいます。私はその人たちの顔を見る度に元気だったころの妻を思い出して悲しくなります。遠い所に住んでいる人であればこんな思いもしないで済むのに、どうして私が今でも苦しまなければならないのでしょうか。

妻が亡くなり、私は1人きりになってしまいました。息子や民生委員さんも時に尋ねてくれますが、1人で作り1人で食べるご飯はとても寂しいです。もう一度妻と2人でご飯が食べたいです。自転車に乗っている女性を見る度に妻を思い出します。あの時、あの人が脇見さえしなければ妻は生きていたはずでした。

自転車に乗る皆さんに言いたいことは、何処にでも脇見運転をする人がいるということです。決して事故に遭わないでください。目立つ姿で車の注意を引いてください。そして、家族も悲しませないでください。私のような人をこれ以上出さないでほしいと思います。

自分の身は自分でまもる

施設の窓口に掲示するなど、必要な方々にご覧いただけるようご協力ください。

滋賀県警察本部交通企画課 高齢者交通安全推進室 ふれあいチーム

TEL 077-522-1231 (代表) Eメール x0022@police.pref.shiga.jp